

# 新幹線プレス

2016年7月7日

No279

発行者 成田隆浩

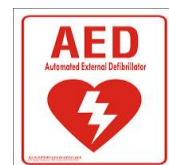
編集者 教宣部

JR東海労新幹線地本

## 車両基地に「AED」と「診療所」設置を！

JR東海労新幹線地本の「大井車両基地における危機管理・救急事態発生に関する申し入れ」に対して、会社は業務委員会を開催せず窓口回答を行いました。その中で、大井車両基地にはJRが管理するAEDが常備されていないことが明らかになりました。また、有事の際には庫内在線の車両搭載のAEDや当直にある予備品のAEDを活用することに行っていると述べています。

しかし、庫内の車両はいつ動くかわからず危険であり、そもそも庫内に車両が在線していない場合もあるため、いざという時にAEDが使用出来ないことが想定されます。



**JR東海労新幹線地本は、大井車両基地の労働者の命を守るため、現場に「AED」の常設と「診療所」設置を要求しました。**

JR東海労幹地申第2号（2016年7月5日）

大井車両基地におけるAED設置等に関する申し入れ

1. 大井車両基地にはSMT会社管理のAEDは5台あるというが、JR管理のAEDは一台もないという現状である。よって、第一・第二検修庫の東京方付近、大阪方付近に各一台、臨修庫に1台、総合庁舎1階入り口付近に1台、その他必要と思われる箇所にJR管理のAEDを設置すること。
2. AEDの使用方法について、全社員に教育すること。
3. 労働安全衛生の充実のために大井車両基地内に「診療所」を設置し、看護師等を常駐させること。
4. 救急車を手配した際は、救急車が目的地点に速やかに到着できるように、誘導者を守衛に待機させること。また、そのようにマニュアル化すること。

**大井車両基地の労働者の命を守ろう！**

